

# 豊浦層群（中生代ジュラ紀）化石の最新知見

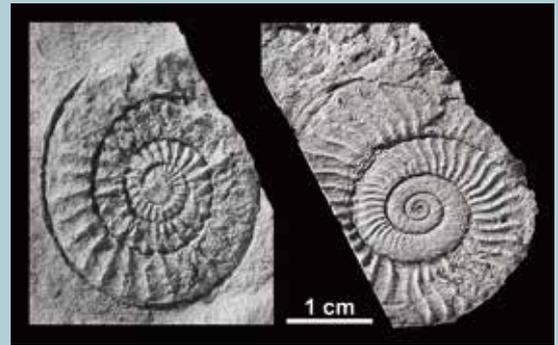
## 1. 豊田のアンモナイトが教えてくれること

講師：桃崎瑛弘（九州大学 大学院 理学府）

アンモナイトは約4億年前に出現し、恐竜とともに絶滅するまで、3億年以上にわたって海洋で繁栄した生物です。なかでも中生代ジュラ紀（約2億年前～1億4,500万年前）という時代には、アンモナイトが爆発的に種数を増やし世界中で繁栄したことが分かっています。ジュラ紀のアンモナイト化石は、地層の時代決定や大陸移動に伴う生物の分化などを解明する上で欠かせない手がかりであり、古生物学や地質学の研究に大いに役立っているのです。

さて、実は豊田町には日本最大のジュラ紀アンモナイト化石の産地があることをご存じでしょうか。実際に野外で化石を採集してみると、その膨大な数に圧倒されることでしょう。しかし、ヨーロッパなど海外の標本と比べると、豊田町のアンモナイトは平らに押し潰されてしまっていて、見た目が良くない標本も少なくありません。時には、名前を付けるのに必要な形質が観察できず、分類に混乱が生じることもしばしばです。一方で、実は『潰れているからこそ分かる』情報も多く、これに着目した様々な研究が行われてきました。例えば、潰れた化石の保存状態を細かく観察することで、化石が形成されるまでの過程が明らかになってきています。

本講演では、様々な実物化石に触れていただきながらアンモナイトの魅力を存分にお伝えしたいと思います。あわせて、私が現在豊田町で行っている地質調査の様子や、豊田町のアンモナイトに関する最新の研究成果についてもご紹介いたします。



▲豊田町から産出したアンモナイト化石標本

## 2. 目に見えない！小さな化石と豊浦層群研究の最前線

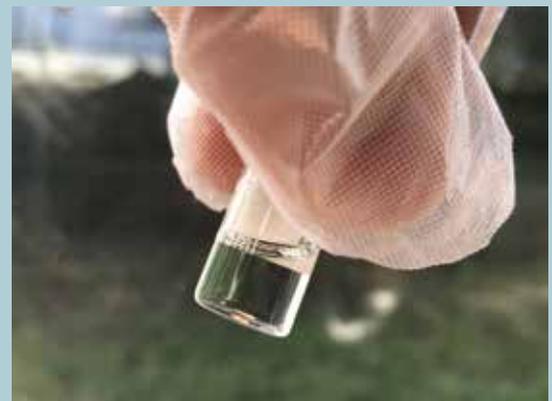
講師：河端 康佑（山口大学 大学院 創成科学研究科）

豊浦層群は昔から化石の宝庫として知られ、その120年にもおよぶ長い研究の歴史の中で、大勢の研究者により調べられてきました。それでもなお、豊浦層群には沢山の秘密が残されていて、今でも世界中の研究者によって、毎年のように新発見がなされています。

そんな豊浦層群研究の最前線が、豊田ホタルの里ミュージアムのすぐそばにある事を皆様はご存知でしょうか。名前を桜口谷といいます。小さな谷ですが、豊浦層群が最もよく調べられている場所の一つであり、ジュラ紀の激しい環境変動を記録している貴重な場所でもあります。

化石は、地層のできた場所や環境、更には当時の地球環境を知る重要な手がかりです。そのため、豊浦層群研究の黎明期からよく研究されてきました。しかし近年桜口谷で、これまで見つからなかった2つのタイプの化石の存在が明らかになりました。一つは、花粉や孢子といった微細な粒子の化石…ではなく、更はその粒子表面に押し付けられたプランクトンの痕跡です。電子顕微鏡でしか見られないような化石です。もう一つはもっともっと小さい、光合成生物由来の分子レベルの化石です。こちらは私の研究テーマでもあります。

講演では、桜口谷で見つかった二つの小さな化石研究を通して、近年の豊浦層群研究の動向を紹介させていただきます。私たちの暮らす大地ができたはるか昔に思いを馳せ、小さな化石が語るジュラ紀の地球の物語に耳を傾けてみませんか。



▲豊浦層群の岩石から抽出された光合成生物の分子化石

- ・開催日時：令和6年11月17日（日）10:00～12:00
- ・場 所：豊田ホタルの里ミュージアム多目的ホール ※対面のみです。
- ・受講料：無 料
- ・申し込み：入力フォーム →
- ・申込締切：定員になり次第締め切らせていただきます。
- ・定 員：40名

